

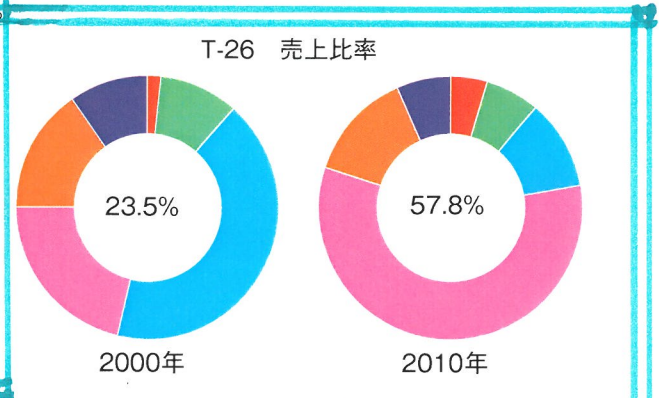
アルバムの進化と市場背景

初期のアルバム

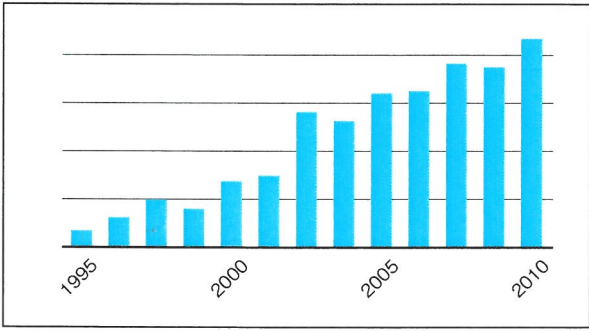
リング式やブック式（大和綴じ）など台紙の増やせないタイプがほとんど。白黒写真が一般的。写真を台紙にレイアウトする方法は、ノリなどの接着剤が三角コーナーが主。アルバムそのものの形状は横型か縦型で、現在の様な真四角に近いものはあまり無かったようだ。表紙の素材は、布、紙、革、布クロス、紙クロスなどで高級感のあるものから簡易なものまである。

カメラ普及とアルバム普及の背景

高度経済成長期に入ると、家電製品の普及に伴い、余暇時間が増加した。趣味やレジャーが多様化、渡航条件が整い海外旅行にも手が届くようになった。誰でも手軽にとれ价格的にも購入しやすいコンパクトカメラの出現でカメラの大衆化が進み、アルバムの必要性が高まった。白黒プリントに加え、カラープリントの発売されるようになり撮影枚数も増加。アルバム需要も拡大。



アルバムの台紙は時代背景とともに改良を加えたり、バリエーションを増やしたりしてきました。写真の大きさがE版からサービスL版になったことにあわせて台紙のサイズも大きくなりました。台紙の色も白だけでなく、淡いパステルカラーや大理石調の模様入りも創りました。写真をレイアウトするだけで楽しく編集できる花やキャラクターなどイラスト入りもあります。サイズや製本様式も多様に揃え、使う人の感性で選べます。



写真の価値観の変化～デジタルカメラの普及

1986年にレンズ付き写真フィルムが発売され、外出先でも手軽に写真が撮れるようになった。また、1997年頃にはアミューズメントパークを中心に設置された写真シール印刷機が、女子中高生や若い女性を中心に人気となった。
→ショット数が増加したことによる写真の価値観の変化。（節目の記念⇔日常の切り取り）
→その一方でアルバムを創ることそのものを楽しむ。「スクラップブック」の認知拡大。
→携帯電話に撮影機能が追加（誰でも、どこでも手軽に） 高品質アルバム台紙の開発と生産。

- デジタルカメラの普及(手軽に、フィルム不要)
撮影したその場で内容が確認できる。フィルムカメラの場合はプリントは必須。ネガも不要となり、データ管理はパソコンなどで行う。
- 店頭でプリントする以外に、家庭での出力が可能に
銀塩写真とインクジェットプリント出力用紙の混在、一般には見分けが付きにくいいため、どちらの素材にも対応できる台紙を開発。
- 大容量データの送受信が可能に～インフラの整備
デジタルカメラの画像をインターネット経由で編集し、高級製本写真集サービス開始。デジタルならではの便利さが特徴。
同じアルバムを複数冊創るのも簡単にできる

■アンケート調査(2010.4.1～2011.3.31)

	2010年4月	2010年6月	2010年8月	2010年10月	2010年12月	2011年1月	2011年3月
男女比	5 : 5	4 : 6	3 : 7	4 : 6	2 : 8	3 : 7	2 : 8
製品満足度	78%	84%	76%	88%	90%	86%	91%
還元率	39.9%	43.8%	42.3%	39.6%	39.9%	41.8%	41.7%
一冊あたり (円)	334.19	355.39	346.34	330.62	324.18	325.91	324.60